

防災まちづくり委員会の審議結果について

財団法人 消防科学総合センター

研究員 小松 幸夫

1. はじめに

自治省消防庁及び当センターでは、平成 8 年度において学識経験者、関係団体、関係行政機関の職員で構成される「防災まちづくり委員会」（委員長篠田伸夫消防庁次長）を設置し、地方公共団体や自主防災組織等における防災に関する様々な取り組み、工夫・アイデアを調査し、特に優れた取り組みについては、「防災まちづくり大賞」の審査・選定を行った。

本稿は、その調査内容と審議結果をまとめたものである。

2. 調査内容

次のような各種団体、組織による防災に関係ある優れた取り組みを調査した。

(1) 対象者

都道府県、市町村（一部事務組合を含む）、消防団、自主防災組織、婦人防火クラブ、少年・幼年消防クラブ、事業所の防災組織等の各種団体、組織。

(2) 調査内容

次の二つの部門に分けて調査を行った。

① 防災ものづくり部門

防災センターなどの防災関係の施設整備、道路や公園、建築物、植樹等における防災面での配慮などいわゆるハード的な「防災まちづくり」についての取り組み。

② 防災ことづくり部門

防災意識の高揚・啓発や防災教育の観点から実施するイベント、訓練・講習、防災マップの作成などいわゆるソフト的な「防災まちづくり」についての取り組み。

3. 防災まちづくり大賞の概要

表彰の種類は、自治大臣賞（1 団体ずつ）、消防庁長官賞（1 団体ずつ）、消防科学総合センター理事長賞（2 団体ずつ）とし、表彰団体は合計で 8 団体とした。

4. 防災まちづくり大賞の結果と表彰事例の概要

各都道府県の調査の結果、ものづくり部門 160 件、ことづくり部門 307 件、合計 467 件に及ぶ事例が集まった。この中から、防災まちづくり委員会により審査・選定を行い、防災まちづくり大賞の受賞 8 団体が決定した。以下に受賞 8 団体とその受賞事例の概要を紹介する。

(1) 防災ものづくり部門

<自治大臣賞>

一寺言問を防災のまちにする会（東京都墨田区）

「路地尊、広場、避難路整備」

一寺言問を防災のまちにする会は、昭和 61 年に結成され、防災まちづくり瓦版の発行など積極的な活動を展開してきた。また、墨田区では、一寺言問を防災のまちにする会のアイデアを受け入れながら、これまでに路地尊(防災掲示板と雨水を利用した防災用井戸で構成一路地の守りとして路地尊と名付けられた。)を 6 基、まちづくり活動の場として路地尊と一体になった広場を 4 カ所、さらに電柱の移設、歩道の緑化等避難路 3 カ所の整備を行った。同会は、現在もソフト面を中心に防災まちづくり活動を展開している。

<消防庁長官賞>

堀町会連合会自衛消防隊（大阪府松原市）

「防災井戸等防災設備の整備及び啓発」

本組織は、地域住民自らが「自分たちのまちは、自分たちで守る」という理念から結成した組織で、町会費のみで運営されている。ハードとソフトがうまく連携した事例で、防災井戸、農業用水井戸を利用した私設消火栓、消防用具格納庫、動力ポンプ設備、非常サイレン、ホース乾燥柱などの防災設備を積極的に整備している一方で、消防訓練や救急講習会の実施防災パンフレット等の配布、天ぷら油火災用スプレーの支給などの防災活動を積極的に実施している。

<消防科学総合センター理事長賞>

船橋市（千葉県）

「海水等を利用した大規模消火施設の整備」

本施設は、震災時に断水により消火栓が使用できなくなった場合を想定し、従来の消防水利システムと合わせ、海水を消防水利として活用する新たなシステムである。下水道の雨水放流管に海水を逆流させてマンホールから取水する「下水道利用方式」、ポンプで圧送管を通じて内陸の消火栓に海水を送る「圧送管方式」、海や河川・水路等を直接利用する「直接取水」の 3 方式で約 1,010ha を消火活動可能範囲としている。

<消防科学総合センター理事長賞>

大阪市（大阪府）

「広域避難場所における仮設トイレ汚水受け入れ施設の整備」

本施設は、阪神・淡路大震災を教訓として、広域避難場所での仮設トイレの汚水（し尿）処理をすため、敷地内に汚水受け入れ施設（マンホール）と下水管渠を布設したものである。マンホールと汚水受け入れ柵の周囲に仮囲いを設けることにより、直ちにトイレとしても使用できる。今回、中島公園（西淀川区）に設置された施設は全国でもはじめてのもので、約 1 万人が 1 週間程度使用することができる。

(2)防災ことづくり部門

<自治大臣賞>

国分寺市（東京都） 「市民防災まちづくり学校」

本学校は、国分寺市が防災やまちづくりに関する情報を提供し、地域での防災活動のリーダーを育成するために、昭和 53 年から市内全域の緑や水といった環境問題、都市計画など幅広い講義を行っている。本学校の修了者は、市が設置している「市民防災推進委員会」の委員に就任し、その成果を地域の防災活動に実践的に活かして、災害に強い街づくりに大いに貢献している。

<消防庁長官賞>

春日学区自主防災会（京都府京都市） 「福祉のまちづくり」

本組織は、自主防災組織を中心に災害時要配慮者に対する積極的な取り組みとして、保健福祉サービス情報、消火栓、防災水槽、広域避難場所、医療機関等を反映させた福祉防災地図を作成している。また、町内会、住民福祉協議会、消防団、交通安全会、ボランティア団体等各種団体が連携して災害時要配慮者への医療、保健、福祉、防犯及び防災の総合的な支援を行うネットワーク体制を構築している。また、把握している情報の活用にはプライバシー保護に配慮している。

<消防科学総合センター理事長賞>

沢内村スノーバスターズ（岩手県沢内村）

「雪かきボランティア 沢内村スノーバスターズ」

沢内村は、岩手県内有数の豪雪地帯であるが、過疎化や人口の高齢化が急速に進展したことに伴い、冬期間の雪かき、雪おろし等が困難な世帯が増加し、防災上の観点からも何らかの対応が求められていた地域である。そこで他の市町村に先駆けて、高齢者世帯の雪かきを無報酬で行うボランティア団体を結成しているが、この活動は災害発生時における避難路の確保と住民の防災意識の高揚に大きな役割を果たしている。また、この活動等を通じての高齢者との交流も重要視さ

れており、現在では同村にとってなくてはならないものとなっている。

<消防科学総合センター理事長賞>

川合・小宮神子供会（岐阜県春日村） 「夜警活動」

この夜警活動は、明治28年9月2日発生した大火を契機に始まったもので、以来100有余年の歴史を誇っている伝統的活動である。太平洋戦争中には、村に残った女性たちの手で行われたが、現在では小中学生に引き継がれて実施されている。現在約20人の地区内の小中学生が、大雪の日を除く毎日、1時間あまりかけて地区内の夜警を行っている。また、夜警活動のほか岐阜県が推奨している花づくり事業等も行っている。

5. おわりに

防災まちづくり大賞の調査に際しまして、各都道府県及び各市町村、その他関係団体には、ご多忙のところ大変なご協力を賜りました。厚くお礼申し上げます。

平成9年度防災安全研修会について

(財)消防科学総合センターでは、毎年、消防庁のご協力を得て首題研修会を実施いたしておりますが、平成9年度は下記によって実施いたします。

記

(1) 防災安全中央研修会

- ア 開催期日 平成9年9月11日(木)～12日(金)
- イ 開催場所 東京「ニッショーホール」
- ウ 受講対象者 地方公共団体の消防・防災関係者等
- エ 会場定員 約720名
- オ 研修内容 検討中

(2) 防災安全地方研修会

- ア 開催期日 平成9年6月～平成10年1月
- イ 開催場所 14カ所程度(都道府県からの申込みをまとめて決定する)